

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成26年10月16日(2014.10.16)

【公表番号】特表2012-520249(P2012-520249A)

【公表日】平成24年9月6日(2012.9.6)

【年通号数】公開・登録公報2012-035

【出願番号】特願2011-553352(P2011-553352)

【国際特許分類】

C 07D 215/54 (2006.01)
C 07D 409/12 (2006.01)
C 07D 215/56 (2006.01)
C 07D 401/12 (2006.01)
C 07D 417/12 (2006.01)
C 07D 413/12 (2006.01)
C 07D 405/12 (2006.01)
A 61K 31/4709 (2006.01)
A 61K 31/47 (2006.01)
A 61K 31/4706 (2006.01)
A 61K 31/5377 (2006.01)
A 61P 25/04 (2006.01)
A 61P 25/08 (2006.01)
A 61P 13/02 (2006.01)
A 61P 25/22 (2006.01)
A 61P 25/30 (2006.01)
A 61P 25/18 (2006.01)
A 61P 25/06 (2006.01)
A 61P 25/28 (2006.01)
A 61P 21/00 (2006.01)
A 61P 43/00 (2006.01)

【F I】

C 07D 215/54
C 07D 409/12 C S P
C 07D 215/56
C 07D 401/12
C 07D 417/12
C 07D 413/12
C 07D 405/12
A 61K 31/4709
A 61K 31/47
A 61K 31/4706
A 61K 31/5377
A 61P 25/04
A 61P 25/08
A 61P 13/02
A 61P 25/22
A 61P 25/30
A 61P 25/18
A 61P 25/06
A 61P 25/28

A 6 1 P 21/00
A 6 1 P 43/00 1 1 1

【誤訳訂正書】

【提出日】平成26年9月1日(2014.9.1)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 0 6

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 0 6】

さらに、KC N Q 2 / 3 K⁺ チャンネルは、多数の他の疾患、例えば偏頭痛（米国特許第2002/0128277号明細書）、認識疾患（Gribkoff著，Expert Opin Ther Targets 2003；7(6)：737-748）、不安状態（Korsgaard et al.著，J Pharmacol Exp Ther. 2005, 314(1)：282-92）、てんかん（Wickenden et al.著，Expert Opin Ther Pat 2004, 14(4)：457-469；Gribkoff著，Expert Opin Ther Targets 2008, 12(5)：565-81；Miceli et al.著，Curr Opin Pharmacol 2008, 8(1)：65-74）、尿失禁（Streng et al.著，J Urol 2004；172：2054-2058）、依存症（Hansen et al.著，Eur J Pharmacol 2007, 570(1-3)：77-88）、躁病／双極性障害（Dencker et al.著，Epilepsy Behav 2008, 12(1)：49-53）、筋失調に関連する運動障害（Richter et al.著，Br J Pharmacol 2006, 149(6)：747-53）の治療のための適当な対象である。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 8 4

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 8 4】

有利に、本発明による医薬は、痛み、有利に急性痛、慢性痛、神経障害性痛、筋肉性痛及び炎症性痛からなる群から選択される痛み；てんかん、尿失禁、不安状態、依存症、躁病、双極性障害、偏頭痛、認識疾患、筋失調と関連する運動障害及び／又は尿失禁からなる群から選択される1種又は数種の疾患の治療のために適している。

【誤訳訂正3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 8 8

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 8 8】

痛み、有利に急性痛、慢性痛、神経障害性痛、筋肉性痛及び炎症性痛から選択される痛み；てんかん、尿失禁、不安状態、依存症、躁病、双極性障害、偏頭痛、認識障害、筋失調と関連する運動障害及び／又は尿失禁を治療するための医薬を製造するための、少なくとも1種の本発明による置換された2-メルカプトキノリン-3-カルボキサミド並びに場合により1種若しくは数種の製剤学的に許容された助剤の使用が有利である。

【誤訳訂正4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0092

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0092】

本発明の他の主題は、痛み、有利に急性痛、慢性痛、神経障害性痛、筋肉性痛及び炎症性痛から選択される痛み；てんかん、尿失禁、不安状態、依存症、躁病、双極性障害、偏頭痛、認識障害、筋失調と関連する運動障害及び／又は尿失禁を治療するための、少なくとも1種の本発明による置換された2-メルカブトキノリン-3-カルボキサミド並びに場合により1種若しくは数種の製剤学的に許容された助剤である。

【誤訳訂正5】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】請求項15

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項15】

痛み、てんかん、尿失禁、不安状態、依存症、躁病、双極性障害、偏頭痛、認識障害、筋失調と関連する運動障害及び／又は尿失禁の治療のための医薬を製造するための、それぞれ個々の立体異性体又はその混合物、遊離化合物及び／又はその生理学的に許容される塩の形態での請求項1から13のいずれか一項に記載の少なくとも1種の置換されたカルボキサミド又はN-ベンジル-2-(3-クロロ-2-ヒドロキシプロピルチオ)-4-(2,4-ジクロロフェニル)キノリン-3-カルボキサミドの化合物の使用。